

認定心理士の会から

北海道支部会シンポジウムのご報告

今回は2019年10月6日（日）に行われた北海道支部会のシンポジウムについてご報告したいと思います。今年で3年目となるシンポジウムですが、今回のテーマは「社会関係を実証する心理学」でした。対人・社会関係は私たちの日常的にも大きな関心事であると思われます。社会関係を心理学の視点から科学的・実証的に検証する方法について、お二人の話題提供者にご発表いただきました。

最初に阿部匡樹先生（北海道大学大学院教育学研究院・准教授）から「共同行為における社会性——他者との協調を司る神経基盤を探る」という演題で、二人間の共同行為を通じた関係性についてのご研究を紹介いただきました。またfMRIで二人の脳活動を同時に測定する方法で、二者のインタラクションに関連する脳内メカニズムについてのご研究を発表いただきました。

次に結城雅樹先生（北海道大学大学院文学研究院・教授）から「対人心理の多様性と社会の多様性——比較社会生態心理学の視点から」という演題で、集団や社会といったよりマクロな関係性について、インターネットを使った多国間の実証研究を紹介されました。対人心理の多様性の原因を説明するために、人々を取り巻く社会環境の特性、とくに「関係流動性」との関連について分かりやすくご説明いただきました。

来年度のテーマについては現在選定中ですが、引き続きイベントを企画しております。北海道にお住まいの方、あるいは北海道外からでも是非ご参加いただければ幸いです。詳しい内容や参加方法は、認定心理士イベントのWebページ（<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokaievent/>）をご覧ください。

（認定心理士の会運営委員北海道支部会
小川健二）

若手の会から

第83回大会活動報告 ——研究者のたまご

今年度の第83回大会は、若手の会が発足してから6回目の大会でした。学部生・高校生無料の勢いに乗り、若手の会の企画への参加者が年々増えてきています。大会1日目のワンショット発表会では、18名の若手が1分間で印象に残るような工夫を凝らし、演題の宣伝を行いました。また、今年は5名の高校生が学部生・高校生プレゼンバトルに参加してくれました。学部生・高校生ともに発表スキルや研究の独創性は、甲乙つけがたく「研究者のたまご」と油断してはいられない将来性のある発表ばかりでした。

大会2日目には「若手心理学者の活躍する場——国立の研究機関から民間企業等の新しい活躍の場まで」と題して、4名の先生方に話題提供をしていただきました。心理学者の活躍の場が多様化してきた中で「心理学の知見を一般社

会へ発信していくために何をどうすべきか？」や「実際に所属機関でどのような研究をしているのか？」など貴重なお話を伺うことができました。最後に指定討論者の先生から「博士が100人いる村」を題材に博士の就職率等が紹介され、フロアから多くの質問が飛び交う中、大盛況のうちに終わりました。

シンポジウムの後には「若手のための進路相談会」を行いました。今年は個別形式と集団形式の相談会を設けて参加者のニーズに対応しました。集団形式では同世代の若手心理学者と悩みを共有しながら、個別形式ではじっくり対話できる会になったのではないかと考えております。若手の会の企画についてご意見やご要望がありましたら、ご遠慮なく【jpa-ecp@psych.or.jp】までぜひお聞かせください。

（若手の会幹事 中川裕美）